

横浜市金沢区の弁天池で採れた貝とエビ

村岡健作・山田文雄

Freshwater shells and shrimps found in Benten-ike, Yokohama

Kensaku MURAOKA・Fumio YAMADA

横浜市内に生息する淡水産の貝類や甲殻類の報告は筆者の知る限りでは以外に少なく、最近のものでは、横浜市港北区勝田町の権田池の貝類について本誌1号で報じたものが最も新しい記録と思われる。今回、権田池に引き続き、横浜市金沢区釜利谷の弁天池で、オオタニシ、カワニナ、マシジミの貝類とスジエビ、スマエビなどの淡水エビ類の生息を確認したので、この観察記録を報告するとともに、本池に生息していた淡水動物についても簡単にふれたい。

弁天池の概要

弁天池は横浜市金沢区釜利谷町の白山道地区に位置し、広さ2400m²ほどの用水池である。池の周囲は最近まで樹木で囲まれ、自然味が良く残されていた。しかし、この付近一帯は宅地化が進み、更に、山林地区の開発、整備する計画も持ち上がり、既に付近一帯は工事が進行し、この池も開発予定地域に含まれてしまった。このため、池は昭和56年の春には埋め立てられるものと思われるが、現在、池の周囲はフェンスを張りめぐらし立入禁止とし、池の水も落として池底が露出している（写真1）。



写真1 池底が露出した弁天池

調査は1980年12月20日に露出した池底で行なったが、これ以前の11月に数回生息確認のための補助調査を実施した。

弁天池の貝とエビ

オオタニシ *Cipangopaludina japonica*
(v. MARTENS)

本種は多量の腐植物が混入した泥土質の場所に多いただし、12月の調査では露出した池底に見られる細い水路の中やその水際に生息するものの、個体数は多くはなかった。調査個体のうち、主な個体の測定値を表1に示す。

表1 オオタニシの測定値 (mm)

殻長	殻径	採集年月日
61.0	39.0	1980・12・20
59.8	38.0	1980・12・20
56.9	38.2	1980・11・2
59.2	37.7	1980・11・2
33.3	25.3	1980・11・2

カワニナ *Semisulcospira bensoni* (PHILIPPI)

オオタニシの生息地と同様で泥土質の所に多い。本種は一般に殻頂部が蝕損されていることが多いが、本個体は著しい浸蝕はなく、螺塔はいずれも高かった（写真2）。主な個体の測定値を表2に示す。なお、調査した10個体のうち、3個体は胎生貝を擁していた。また、本種の殻口で、蛛形綱、オヨギダニ科の1種が游泳しているのを観察した（個体数は貝1個体につき平均2個体で、体長0.9~1.1mmほどである）。恐らく *Hygrobatas* sp. と思われる（写真3）。

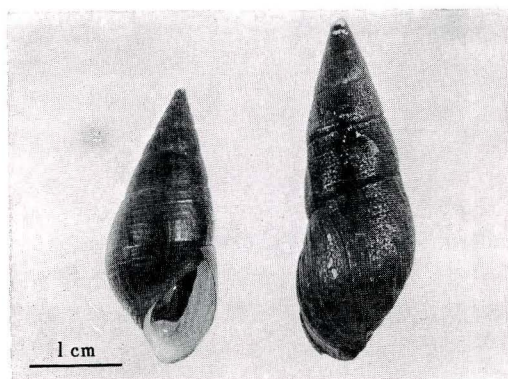


写真2 カワニナ

マシジミ *Corbicula (Corbiculina) leana* PRIME

本池は、岸近くは砂泥質で、中央へ行くほど多量の腐植物が混入し泥土化している。本種の生息域は東岸と西岸の腐植物がわずかに混入した砂質に多く、生息個体数は 1 m^2 で33.4個体を数えた(表3)。個体の大きさは、最大のは殻長43.4mmで、一般には殻長36mm前後のものが最も多かった。

表2 カワニナの測定値 (mm)

殻長	殻径	採集年月日
38.0	15.1	1980・12・20
36.2	12.6	1980・12・20
31.8	13.1	1980・11・2
30.4	12.0	1980・11・2
23.9	11.0	1980・11・2

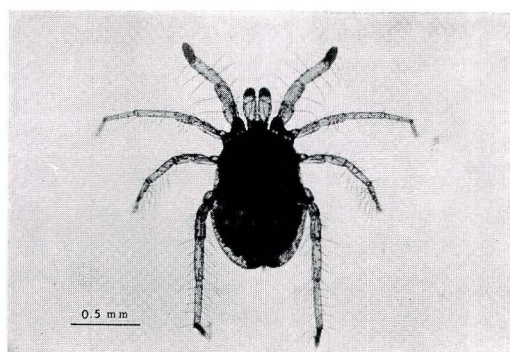


写真3 オヨギダニの1種

ヌカエビ *Paratya compressa improvisa* KEMP

11月の調査では落葉の堆積した水辺の所に多く生息していたが、12月の調査では池底が露出していたために生息を確認することができなかった。観察した個体の体長(額棘を除く)は17.8~26.9mmであった。

表3 マシジミの生息個体数 (1 m^2)

殻長 (mm)	個体数 (平均)
<10.0	3.7
10.1—15.0	11.1
15.1—20.0	9.3
20.1—25.0	0
25.1—30.0	0
31.1—35.0	1.9
35.1 <	7.4

スジエビ *Palaemon (Palaemon) paucidens* DE HAAN

スカエビと同様に12月の調査では生息は確認できなかった。しかし、露出した池底には干涸びたスジエビが多数観察されたことから生息個体数はかなり多かったことが考えられる。なお、本池の周辺の水溜りには現在もスカエビとともに本種も生息している。採集した個体の体長は30.7~40.6mmの範囲であった。

むすび

本池は12月に水を落としたが、その際に上述の種類以外に、マゴイ(30個体)、ヒゴイ(5~6個体)、ウナギ(1個体)、アメリカザリガニ(多数)などの生息が確認されている(大谷氏の談話による)、また、池の周辺の水溜りや湧水地にはウキゴリやサワガニなどが現在も生息している。なお、今回の調査では、本池にはドブガイ、カラスガイ、それとタナゴ類などは生息していないことから、既報の権田池の動物相とは相違している。

終りに臨み、貝を同定してくださった東海大学波部忠重教授並びに採集調査に便宜を与えてくださったフジタ工業横浜支店の大谷春雄氏にお礼申し上げる。

文献

村岡健作 1980 横浜市港北区の権田池で採れた淡水貝. 神奈川自然誌資料, No.1, 89—91.
(村岡健作: 神奈川県立博物館・山田文雄: 横浜市金沢土木事務所)